



[氏 名] 東條 環樹
[出身都道府県] 広島県
[卒業期] 20 期（平成 9 年度卒）



座右の銘 「connecting the dots.」 Steve Jobs

アップルの創始者、故スティーブジョブスがスタンフォード大学で行ったスピーチの一節です。若い時分、その時は「将来の役に立つか？」などと考えず、ただ興味を持って取り組んだことが現在の礎になっているというメッセージです。「義務年限の9年間があったからこそ今の自分がある」と30年後に言える人生を送ってください。

医学生時代は勉強、部活動も卒なくこなしながら、定期休暇毎に地域医療を実践している卒業生を訪ねて行くなど、それなりに「地域医療」を意識した時間を過ごしていました。将来のイメージとして、義務年限内の9年間は大人しく卒業生人事で僻地を回りながら、義務年限後は地域の中小病院で勤務するのだろうか、と漠然と描いていました。初期臨床研修を終え、卒後3年目に赴任した地域中核病院での指導医との出会いが転機となりました。同窓の先輩だったのですが、恐ろしいほど臨床能力が高く、優秀で、専門領域では若くしてすでに全国レベルで指導的な役割



を担っておられました。自分との力量差を痛感し、清々しく専門医への道を諦めて「地域医療を極めよう」と決心しました。卒後5年目に赴任した僻地無床診療所ではその思いを形にしようとチームを作って活動し始めました。(夢中で仕事をしていましたので、義務年限が終了時も気づかないほどでした。そのくらい、義務年限って単なる通過点です。)それから早くも20年が経ちます。地域医療はまだまだ課題が山積した未開のジャングルです。加えて、広義の地域医療は山間僻地だけではなく、都市部にも存在します。むしろ今後20年程は都市部の地域医療が問題となるでしょう。本校卒業生としての活躍の場は、それこそ世界中にあります。自分自身もかなり変則的なキャリア形成だと思いますが、講演会で全国から呼んでもらえる程度にはなりました。時々外国にも行って日本の地域医療を紹介しています。

大学時代に知り合った(看護学生)妻は僻地にも文句も言わずについてきてくれ、4人の子供に恵まれました。子育て中は休職していましたが、落ち着いてからは復職し、近くの高齢者施設で働いています。週末の勤務もあり、そのような時は自分が食事を作っています。子の教育は本校卒業生にとって大きな懸案事項でしょうが、我が家はなんとかかなりました。幼少期、それなりに時間の余裕がある職場環境でしたので、一緒に過ごす時間も確保できました。しかし、子供の目にはワークライフバランスが悪いと映っていたのか、4人のうち、誰も医学部を志望しませんでした。

医師として働くのは残り20年くらいですが、趣味の水泳やランニングを続けながら、ゆっくり仕事をしようと思っています。